

Ⅱ部 健康づくりとくすり

序

薬の乱用、薬害が大きな社会関心事となっている今、薬や化学物質に対する認識を深め、くすりを正しく利用するために知っておきたい知識、地球環境問題等最近の話題などを取り上げ、一般市民向けにやさしく解説し、くすりと健康に対する市民の関心を高めることを趣旨に、長崎大学薬学部公開講座を開設してきた。又、長崎県は地理的に見て離島僻地が多く、それらの地域特性に応じて離島間生涯学習ネットワークシステムを構築し、離島住民の生涯学習要求にこたえることが重要と考え、県、市町村など自治体とタイアップし離島、僻地住民の生涯学習要求に答えうるよう努力してきた。今回、長崎大学公開講座叢書に薬学部の開設してきた公開講座の中からその一部の要旨を出版する機会を得たことは、これまでの活動が評価されたものと、これまで本公開講座に係わってこられた関係者とともに喜ぶたい。

これまで公開講座で開講していただいた先生方の中から、ここでは主にくすりと健康に関与した講演を行って頂いた方々に執筆をお願いし、第Ⅱ部 健康づくりとくすりを構成した。その内容は、まず、体のなかでのくすりの動き（吸収、分布、代謝、排泄）を理解（1章）しその副作用を考える（2章）。さらに健康体を保つために食品成分として取り込まれるビタミンの必須性やその生理作用について解説した（3章）。又、日本の食生活の変遷から食品添加物を考え、食生活上で最近話題の機能性食品の効用にも言及した（5章）。東洋医学の側面からも、薬用植物（6章）、薬膳（8章）をやさしく解説し、身近な健康に関する話題として暮らしのなかの農薬（4章）、酒の功罪（7章）についても記載した。

薬学部公開講座は、今後も、離島、僻地を中心に開講の予定であり、地域に

開かれた公開講座として、地域住民の健康生活の増進に一層寄与できるものと思われその成果が期待される。